令和3年度　美郷町教育委員会　事務事業評価総括表

基本方針	基本目標		施策	主な取り組み（事業）	令和3年度 事業内容と実施状況	教育振興基本計画の成果指標 項目	R02現状	（R03目標） R03現状	R07目標	事業評価	評価の説明、課題と改善策	外部評価委員の意見
1 社会を生き抜く力の育成	①学ぶ意欲を高め、確かな学力を育む教育	1	基礎学力定着のための環境整備	・「GIGAスクール構想」を踏まえ、今後のICT機器の導入・更新の年度整備計画を策定する。	ICT機器の導入・更新年度整備計画は策定できなかった。	ICT環境整備計画策定・実施	未策定	（策定） 未策定	実施・見直し	B　概ね期待どおり	令和3年度は未策定であったが、策定に向けての取り組みは進んでいる。「GIGAスクール構想」や「美郷町ICT教育推進ビジョン」を踏まえ、美郷町らしいICT教育の在り方を検討する。教育委員会と町内4校が連携して計画策定を進めていく。	計画策定できていないのであれば、事業評価「B」というのはどうか→「評価の説明」を左記の赤字のとおり文言修正実施
		2	「個別最適な学び」のための教員の授業力向上	・学力育成策について、指導主事が指導助言 ・OJTの推進	各小中学校へ指導主事が訪問し、全国学力・学習状況調査の結果をもとに状況説明を実施した。	指導主事の（学力育成のための）年間学校訪問回数	4回	（8回） 8回	8回	B　概ね期待どおり	今後も生徒指導のみならず、学校訪問を行い、児童生徒の学力育成を図る。	
		3	家庭学習の習慣化	・家庭学習時間の確保と内容の充実 ・タブレット端末の家庭学習での活用 ・学習支援館での学習サポート	家庭学習の時間の確保と内容の充実を図った。 タブレットの持ち帰りと家庭学習での活用について、各校で試行を行った。	平日1時間以上学習している児童の割合（小学校6年生）	53%	（54.0%） 40.0%	65%	C　課題あり	スポ少などの活動やメディアとの接触時間の増加が考えられる。家庭学習の意義や自分に合ったまなび方を見出していけるように啓発していく。また学校のタブレットを家庭学習で活用することも試行を踏まえて実施するよう学校へ促していく。	
						平日1時間以上学習している生徒の割合（中学校3年生）	68.8%	（71.0%） 54.2%	85%	C　課題あり	メディアとの接触時間の増加や家庭学習に対しての意識が低いため、家庭学習の意義や自分に合ったまなび方を見出していけるように啓発していく。また学校のタブレットを家庭学習で活用することや学習支援館の利用により家庭学習を平素から行うよう習慣づけていく。	
					学習支援館を利用している生徒を初め町内の中学生に対し全国模試受験の促しを実施した。	学習支援館による全国模試の受験率	40.0%	（44.0%） 32.1%	60%	C　課題あり	学習支援館を利用している生徒を中心とした町内の中学生に対し全国模試受験の周知を積極的に行ったが、目標値には達成しなかった。今後は学校と連携を取りながら、周知方法を工夫し受験率を向上させていきたい。	全国模試を受験率が上がればいいのだろうか？学力向上につながるかどうか？
		4	読書活動の推進	・小中学校における読書活動の推進 ・学校・図書館連携による読書活動の推進	読み聞かせや朝読書を継続して実施した。 移動図書館車が学校を訪問し貸し出しを行うことで、児童の興味・関心を引き出すきっかけとなった。	平日30分以上読書している児童の割合（小学校6年生）	29.6%	（30.0%） 51.4%	35%	A 期待どおり	読み聞かせや朝読書など様々な読書活動の推進を図っている。 今後も学校や家庭においての読書活動を進めていく。	
						平日30分以上読書している児童の割合（中学校3年生）	29.3%	（30.0%） 37.1%	35.0%	B　概ね期待どおり	読み聞かせや朝読書など様々な読書活動の推進を図っている。 今後も学校や家庭においての読書活動を進めていく。	
	②情報活用能力の育成	5	GIGAスクール構想の推進	・ICT教育推進ビジョンの策定と推進 ・ICTを活用した授業づくり ・オンライン学習のための環境整備とスキル向上 ・プログラミング学習の充実 ・教職員・保護者の情報リテラシー及びICT活用能力の向上	「美郷町ICT教育推進ビジョン」を策定した。 オンライン学習のスキルアップを目指して教職員実施	美郷町ICT活用能力育成計画の策定・実施	未策定	（策定） 策定	実施・見直し	B　概ね期待どおり	「美郷町ICT教育推進ビジョン」を策定し、その中でICT活用能力育成についても示している。	
		6	学校図書館活用教育の推進	・学校司書の配置と学校図書の整備	授業の内容に関連した図書資料の活用し、学習内容に関する興味・関心を高めるなど、学校司書と協力して多方向で図書を資料等で活用した。	学校図書館の資料等を活用した年間授業数（小学校）	63時間	（64時間） 55時間	70時間	C　課題あり	コロナ禍ということもあって、学校図書館においての授業が目標値ほどは実施できない状況にあった。今後とも学校の「情報センター」として学校図書館で調べ学習などで授業に活用し、学校図書館活用教育の充実を図る。	
						学校図書館の資料等を活用した年間授業数（中学校）	23時間	（24時間） 12時間	30時間	C　課題あり	コロナ禍ということもあって、学校図書館においての授業が目標値ほどは実施できない状況にあった。今後とも学校の「情報センター」として学校図書館で調べ学習などで授業に活用し、学校図書館活用教育の充実を図る。	
	③すこやかな心と体の育成	7	実体験活動、道徳教育の推進	・自己肯定感を高め、他者理解を図る道徳教育の推進	自己肯定感を高め、他者理解を図る道徳教育を実施	自分にはいいところがあると感じている児童の割合（小学校6年生）	81.5%	（82.0%） 62.8%	90%	C　課題あり	積極的な挑戦や試行錯誤を通じた成長につなげるためにも、自己肯定感を高めていくことは大切。そのためにも生徒が「わかる」「できる」を実感する授業づくり及び学級づくりを求めていく。	
						自分にはいいところがあると感じている生徒の割合（中学校3年生）	67.6%	（68.0%） 80.0%	75.0%	B　概ね期待どおり	中学校では授業や行事、部活動などを通して、生徒一人一人の自己肯定感を高める取り組みを行っており、今後も継続して取り組んでいく。	
		8	学校・家庭・地域連携で体力向上、健康の増進	・保小中家庭が連携して運動意欲や体力向上 ・公民館や地域のイベントを通じて地域で健康増進、子どもたちの体力向上	学校単位でマラソン大会を開催するなど体力向上に向けての取組を継続している	全国体力・運動能力調査における体力合計点（小学校5年生）	57.9点	（58.0点） 55.4点	60点	B　概ね期待どおり	コロナ禍ではあったが、学校の体力向上の取組により目標値は達成したと思われる。今後も学校教育、家庭教育、社会教育それぞれの場面で共通の認識をもって、体力向上に繋がる取組をしていく。	
					学校単位でマラソン大会を開催するなど体力向上に向けての取組を継続している	全国体力・運動能力調査における体力合計点（中学校2年生）	40.4点	（41.0点） 45.0点	50点	B　概ね期待どおり	コロナ禍ではあったが、学校の体力向上の取組により目標値は達成したと思われる。今後も学校教育、家庭教育、社会教育それぞれの場面で共通の認識をもって、体力向上に繋がる取組をしていく。	
		9	いじめや不登校が起きない学校づくり	・望ましい学級集団づくり、いじめの早期発見適切な対応 ・SCやSSWと連携して不登校対策	各校での職員間の共通理解を初め、校内研修、道徳や学級活動における指導、相談体制の充実、いじめ防止基本方針の点検と見直しをし、組織的に対応している。	いじめの認知件数のうち、解消したものの割合	92.0%	（93.0%） 85.7%	100.0%	C　課題あり	いじめを見逃すことなく、児童生徒の実態、人間関係を把握し、適切な指導・支援を家庭と連携しながら組織的に行っていく。	転入生等を初めとする転入時の人間関係作りに努力をしてほしい。
		10	就学援助の充実	・就学援助制度の周知	進級時及び入学時、就学時健診時、町広報誌、一日入学	就学援助制度の年間周知回数（新規）	3回	（4回） 4回	6回	B　概ね期待どおり	進級時及び入学時、就学時健診時、一日入学時に制度の周知を行った。町広報誌にも制度を掲載。今後は年度途中にも周知する場を設けるよう検討していく。	
	④個性や主体性・多様性を活かし伸ばす教育	11	インクルーシブ教育の強化	・子どもたちの特性や背景を理解する方法や能力を高める研修の実施	町内教職員を初め教育関係者に対し特別支援教育に関する研修会の実施	特別支援教育に関する研修会の実施	未実施	（実施検討） 未実施	1回	B　概ね期待どおり	新型コロナウィルス感染症のため実施の見通しが立たなかった。今後はインクルーシブ教育をはじめ、特別支援教育に関わる直近の状況を鑑みて研修内容を検討する。	
					相談会実施月に各学校・保育園を通じて保護者へ配布。広報紙＆IP告知でも周知。	教育相談会の年間周知回数	10回	（11回） 11回	15回	B　概ね期待どおり	相談実施月(5・6・9・10・11・12・1・2月)に各学校・保育園を通じて保護者へ配布(8回)。広報紙＆IP告知で周知(3回)した。今後も各媒体を通して周知していく。	
		12	異文化への関心を高め、国際感覚を醸成	・英語助手や国際交流員の学校・地域での活用 ・オンライン英会話教室等、英語教育の充実	町内でALT1名を町内で招致。外国語授業を初めいろいろな場で外国語に親しむよう心がけている。	英語の勉強が好きだという児童の割合（小学校6年生）	（設問なし）	（60.0%） 74.3%	70.0%	A 期待どおり	令和4年度当初に延期となっていたALTが着任した。児童の英語教育を初めとする外国語の学習については好意的にとらえている割合が高いので、この関心や意欲を中学校へとつないでいく手立てを考えていく必要がある。	
					楽しくわかりやすい英語の授業づくりを初めいろいろな場で外国語に親工夫している。またオンラインにて英会話講座も実施。	英語の勉強が好きだという児童の割合（中学校3年生）	53.0%	（54.0%） 31.4%	60.0%	C　課題あり	令和4年度当初に延期となっていたALTが着任した。学校でのさらなる活用を図り、外国語に親しみを持ってもらう。また英語検定も積極的に受験してもらう。	

基本方針	基本目標		施策	主な取り組み(事業)	令和3年度 事業内容と実施状況	教育振興基本計画の成果指標 項目	R02現状	(R03目標) R03現状	R07目標	事業評価	評価の説明、課題と改善策	外部評価委員の意見
2 未来を担う 人材の育成	①美郷町への愛着と理解	13	学校の学びと地域社会のつながりを感じて主体的に学ぼうとする取り組みの充実	・公民館ふるさと教育の推進 ・地域資源を有効に活用した体験学習の展開 ・保小中12年間のふるさと教育の体系化・系統化 ・学校給食における地場産品の活用と食育	各公民館で人材育成やつながりづくりの活動を地域資源を生かしながら実施した。	公民館ふるさと教育の実施回数	21回	(22回) 12回	32回	C　課題あり	新型コロナウイルス感染症の影響で、計画していた事業も中止せざるを得なかった。それぞれの地域で育てたい子ども像を地域の大人が共有し、連携した取り組みを行う必要がある。	
					学校教育におけるふるさと教育、キャリア教育の充実を図った。多世代対話活動「みさと一く」を実施することで地域の大人と出会う場面を設定し、自分自身の生き方と地域の未来を考える機会をもった。	将来美郷町に住みたい(帰ってきたい)と答えた生徒の割合(中学校3年生)	未実施	(50.0%) 62%	80.0%	B　概ね期待どおり	各種アンケートによると、「美郷町のことが好きか」、「美郷町をよくしたり元気にしたいと思うか」という質問において肯定的に答える生徒が9割以上と多い。今後、学校運営協議会制度の導入等により、学校と地域の連携・協働体制を充実させ、地域社会全体で子どもの育ちを支えていく。	
		14	地域づくりを担う人づくり	・多世代対話活動により、自分自身の生き方を考えたり、地域とつながる機会の充実 ・地域課題解決に取り組む実践者の育成 ・地域住民参画型の公民館活動の実施	体験活動を重視したふるさと教育や地元の企業に職場体験に行くなどキャリア教育の取組を実施。また、多世代対話活動「みさと一く」の実施により自己の生き方を大人と一緒に考える機会の設定。	「将来の夢や目標をもっている」と答えた生徒の割合(中学校3年生)	61.0%	(70.0%) 57.2%	80.0%	C　課題あり	母数が少ないため、年度により推移に変動が見られるが、当該年度は全国平均68.6%より低い結果となっている。。みさと一くの実施により、自己や地域の将来に対して肯定的に捉えるような生徒の変容がみられた。地域や学校での体験活動などを通して、子ども達が社会について考える機会や「なりたい大人」に出会うきっかけをつくっていく。	
					邑智中学校みさと一く13人参加 大和中学校みさと一く10人参加	小中学校における(美郷版カタリ場)に参加した大人(高校生以上)の人数	0人	(20人) 23人	50人	B　概ね期待どおり	公民館からの推薦者を中心に参加者が確保できた。また、役場の若手職員から積極的な参加があった。参加者どうしのつながりができ、地域への関心が高まっている。今後、意義や目的を周知するため、取り組みの実際や成果を見える化して示す必要がある。	
					地域課題(防災、人材育成、つながりづくり、、獣害対策等)の解決に向けた事業を通して、実践者の育成を図った。	公民館の「地域課題解決学習」の実施回数	10回	(10回) 10回	16回	B　概ね期待どおり	各公民館において、課題意識をもって事業を計画、実施した。今後、地域課題に対する住民の熟議が必要である。地域課題解決プログラム等を活用してその機会を設定する。	
		15	文化財の価値づけと維持保存、次世代への継承	・石見銀山街道国史跡追加登録を目指す取り組み ・町内出身の作家作品など文化財の保存・活用 ・文化施設の利活用と文化振興	登録文化財となる可能性がある建造物について調査を行った。	文化財登録件数	17件	(18件) 17件	25件	B　概ね期待どおり	文化庁から再調査の要請があったが、予算不足のため、次年度に持ち越した。令和4年度に調査報告書をまとめる予定。	
					コロナ感染症拡大で、学校で校外学習を控えたため、石見銀山街道を学ぶ学習は実施できなかった。	石見銀山街道を学ぶ学校数	1校	(2校) 0校	4校 (全校)	C　課題あり	新型コロナウィルス感染症の収束状況を見ながら計画していく。 現在の地域課題解決には歴史を学ぶことも必要であることを提案する。 銀山学習(小学校4年生)に関わる取り組みを進める。	石見銀山や中原芳煙だけでなく、「江の川の歴史」も対象にしてもいいのでは？
					石見銀山街道をテーマとした学習会を2つの公民館で開催した	石見銀山街道を始めとする町の歴史を学ぶ公民館数	1館	(2館) 2館	9館	B　概ね期待どおり	郷土の歴史への関心は地域で温度差がある。歴史文化について、どのような切り口で普及啓発するか今後検討が必要。	
					古文書の調査・解読作業を実施	古文書解読による町の歴史調査をまとめる取組	0回	(1回) 0回	1回	C　課題あり	解読成果の報告会をやり方も検討しながら実施したい。HPへのデータ公表は全国のアーカイブス基準を満たす必要があるので、他地域の事例も研究しながら進めて行きたい。	
					中原芳煙を題材とした伝記漫画を製作し、町内全世帯及び県内図書館等へ配布	中原芳煙を題材とした活動の実施学校数	1校	(2校) 0校	4校 (全校)	C　課題あり	県内外から中原芳煙に関する問い合わせが増えており、関心の高さは全国に広がりを見せている。 新型コロナウィルス感染症拡大のため、学校での授業は実施できなかったが、令和3年度に制作した中原芳煙の伝記漫画を4年度以降、学校での教材として活用する。 生家は大和小中学校区にあるためすでに授業に取り込んだ実績があるが、邑智小中学校での関心度は低くいため、啓発していく必要がある。	
						中原芳煙を題材とした活動の実施公民館数	1館	(1館) 0館	9館	C　課題あり	新型コロナウィルス感染症の収束状況を見ながら計画していく。 県内外から中原芳煙に関する問い合わせが増えており、関心の高さは全国に広がりを見せている。 新型コロナウィルス感染症拡大のため、公民館活動そのものが縮小していたため取り組みを進めることができなかった。 令和3年度に制作した中原芳煙の伝記漫画を4年度以降、教材として活用する。	
	②人権意識、生命の尊重	16	人権問題に関する学習機会の提供と差別をなくす実践力の育成	・機関・団体のネットワーク強化 ・研修会や人権の集いを通じて幅広い年齢層へ人権啓発 ・部落差別解消への啓発活動推進 ・感染症に対する正しい知識の普及啓発と偏見差別防止	町同推協講演会(1回) 公民館での講演会等(9回)	人権・同和教育に関する研修会の年間開催数	14回	(14回) 10回	17回	C　課題あり	新型コロナウィルス感染症の影響で、町同推協主催の講演会は1回のみの実施となった。公民館単位の学習会は、感染リスクを避ける方法を工夫し、各公民館で実施した。今後、研修会への幅広い世代の参加者を増やすことが課題である。研修内容や方法、広報を工夫していく。	
		17	進路保障の取組の充実	・進路保障連絡会の開催と進路保障の視点に基づいた取り組み支援 ・学校と地域が連携した進路保障の取組の推進 ・進路保障の視点に基づいた小中学校の取り組み支援	連絡会議(8回) 町同推協講演会(1回)	人権・同和教育推進者連絡会議の年間開催数	12回	(12回) 9回	12回	C　課題あり	新型コロナウィルス感染症の影響で、計画した講演会への参加ができないものがあった。「みさとほっとあっと週間」を、例年の「ほっとあっと広場」より規模を縮小して開催した。よりよい活動が継続できるよう、改めて会議の目的や内容など見直しをしていく。	
					美郷町人権・同和教育連絡会議において、参加者を対象に実施	「子どもの人権」を取り上げた研修会・学習会等の実施回数	1回	(1回) 1回	5回	B　概ね期待どおり	計画していた町同推協の子どもの自尊感情をテーマとした講演会は感染症の影響で実施できなかったが、人権教育関係者対象に学習機会を設定した。各種アンケートの結果では、美郷町の子どもの自尊感情は他と比較して低い傾向にある。今後、学校、家庭、地域において、大人の子どもに対する関わりについて評価、改善、取り組みを進めて行く必要がある。	
		18	多様性を認め合い、障害がある人とない人とが分け隔てられず、共に学ぶ機会を保障するインクルーシブ教育の充実	・多様性が認められる学校・地域づくり ・新型コロナウィルス感染関連差別の防止	人権・同和教育を全ての教育活動の基底に据え、人権教育、道徳教育、ボランティア活動等の充実を図った。	「人が困っている時は、進んで助けている」と考える児童数(小学校6年生)	87.1%	(88.0%) 88.5%	90.0%	B　概ね期待どおり	学校、隣保館、公民館等が連携して取組みを進めている。	
						「人が困っている時は、進んで助けている」と考える児童数(中学校3年生)	94.1%	(94.5%) 88.5%	97.0%	B　概ね期待どおり	学校、隣保館、公民館等が連携して取組みを進めている。	

令和3年度　美郷町教育委員会　事務事業評価総括表

基本方針	基本目標		施策	主な取り組み（事業）	令和3年度 事業内容と実施状況	教育振興基本計画の成果指標 項目	R02現状	（R03目標） R03現状	R07目標	事業評価	評価の説明、課題と改善策	外部評価委員の意見
3 学校、家庭、地域の連携・協働による教育環境の充実	①地域の力を活かした学校づくりの推進	19	地域全体で学校を支援する体制の整備	・学校運営協議会の設置と機能充実 ・ふるさと教育等、異校種間の連携	学校運営協議会制度の導入について担当者で検討	学校運営協議会を設置している学校（コミュニティスクール）の数	0校	（0校） 0校	4校（全校）	B 概ね期待どおり	令和5年度以降の導入について準備体制整備を進めている。教育関係者において制度についての理解が不十分である。制度に関しての学習会、説明会を実施していく。	
					小中連携の活動2回	異校種間の連携、保・小・中・高・大が一緒にする活動（授業）の実施回数	8回	（9回） 2回	14回	C 課題あり	新型コロナウイルス感染症により、計画されていた活動が中止となった。小学校と中学校の連携活動だけでなく、近隣高校や大学と連携した活動を実施していくことも目指していく。	
		20	地域学校協働活動への地域住民の参加・参画	・地域学校協働活動への参加促進 ・地域人材の発掘と活用及び公民館連携の推進	ふるさと教育を中心に、実施するにあたり、学校と地域が事前に打ち合わせを行った。 邑智地域12回 大和地域13回	学校と地域住民が協働した（事前協議や振り返りを一緒に行う）活動の実施回数	23回	（25回） 25回	33回	B 概ね期待どおり	コーディネーターの調整により、事前打合せが継続的に行われるようになっている。それにより、目標達成に迫る活動に改善が進んでいる。更なる改善のために、事後の振り返りの充実を図っていく。	
					ふるさと教育を中心に、地域住民が講師を務めたり、ボランティアとして活動に参加したりした。 邑智地域73人 大和地域87人	学校支援に関わった地域住民の人数	176人	（180人） 160人	200人	B 概ね期待どおり	新型コロナウイルス感染症により、活動を縮小して実施したものがある。事前の打ち合わせなどにより、学校と地域で目的の共有が進み、目標に迫る活動に改善が進んでいる。今後、多様な地域住民の参加、参画を図っていく。	
	②子どもを中心に据えた地域づくりの推進	21	地域学校協働活動（放課後支援）への地域住民の参画	・放課後子ども教室の企画運営に保護者や地域住民が参画 ・放課後児童クラブと放課後子ども教室の連携	放課後子ども教室において事業実施計画を立てたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて中止とした。	放課後子ども教室、放課後児童クラブの活動に地域住民がスタッフとして運営に携わった活動の実施回数	1回	（1回） 0回	4回	C 課題あり	放課後子ども教室において事業実施計画を立てたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて中止とした。 今後においても、協力してもらう人材の確保が課題。	
		22	子育てに対する不安や悩みを解消する支援活動の充実	・家庭教育学習会や親子体験活動の実施 ・親学プログラムの実施 ・子育てサークル等支援	小中学生の親子を対象した、命についてのお話しとバランスボールを使った体力づくり。	保護者を対象とした家庭教育に関する研修会、学習会等の実施回数	2回	（2回） 1回	4回	C 課題あり	新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、町内全地域の小中学生の親子を対象に1回だけ実施できた。 地域とのコミュニケーションや学習機会等をなかなか得ることのできない保護者や家庭に対する支援手法をと入れていく必要がある。	
		23	学校を核とした地域づくりを目指した、学校・家庭・地域のネットワーク強化	・地域学校協働本部を整備し、学校運営協議会と連携・協働を促進 ・コーディネーター、社会教育士の養成	地域学校支援コーディネーターが学校や地域の要望を受け、活動のマッチングを行っている。これにより、ネットワークの強化が図られている。 邑智地域57件 大和地域25件	大和、邑智それぞれの地域学校協働ネットワークへの参加団体（個人）数	86件	（88件） 82件	96件	B 概ね期待どおり	継続的に情報収集、情報発信を行い、ネットワークの構築に取り組んでいる。 学校と地域の情報共有が進み、新たな活動がはじまるなど成果が上がっている。	
		24	地域住民どうしのつながりの充実	・公民館における多世代交流の充実 ・他部局（福祉、地域振興）、社会による教育施設、福祉施設・団体、自治会等の連携事業の充実により、多様な人々が交流する機会を設定	公民館において、子ども中心の地域行事（七夕会、クリスマス会、BBQ等）や子どもと高齢者の交流会などを実施した。	公民館の多世代交流事業の実施回数	3回	（3回） 6回	9回	B 概ね期待どおり	新型コロナウイルス感染症により、交流の機会の設定が難しい状況である。感染対策や活動内容を工夫してできることを実施した。感染症によりつながる機会が失われつつある中、つながりの重要性が再認識されている。	
	③自主的・主体的な学びの支援	25	地域住民が主体的に学べる学習環境を整備し、住民の生きがいづくり、仲間づくりを支援	・公民館講座の開講と学習成果発表の機会を提供 ・美郷大学の開催	教養講座での学習成果の発表会を開催した。	公民館の学習成果の発表や展示会等の実施数	4館	（4館） 1館	9館	A 期待どおり	各公民館において、公民館まつりなどの機会に発表会を設定することを想定しているが、感染症拡大により開催できなかった。 作品などは各館に掲示、展示し、誰でも鑑賞できるようにしている。 学習成果の発表により、満足感や達成感、次の活動への意欲につなげていく。評価が感じとれる工夫が必要。	
		26	町立図書館「みさと本の森」の機能充実	・移動図書館事業の充実 ・公民館と連携してブックカフェを開催 ・図書ボランティアや子育て支援センターと連携し、親子読書を推進	館内環境の整備 移動図書館の活用	図書館「みさと本の森」の貸出冊数	41,993冊	（47,200冊） 50,530冊	68,000冊	B 概ね期待どおり	目標を達成したが、これを維持した上で更に来年は2000冊の貸出数増加を目指す。 そのためには、本館の利用を積極的に促進する必要がある。 遠隔地へのサービスを拡大しながら、本館への利用につながるようアピールしていかなければならない。	
					広報などでの図書館PR。 長期休暇中の学習席利用など図書館活用の推進。 団体配送や移動図書館先団体へのアプローチ。	図書館「みさと本の森」の登録者数	1,380人	（1,510人） 1,571人	2,000人	B 概ね期待どおり	移動図書館先が増えたこともあり目標数値は達成できたが、2000人達成には本館や移動図書館巡回先と合わせてその周辺地域にも呼び掛けていく必要がある。	
					巡回を希望する施設を募集した。	図書館「みさと本の森」の移動図書館拠点施設数	9箇所	（11箇所） 9箇所	15箇所	C 課題あり	目標を達成することはできなかったが、新型コロナウイルスの影響が落ち着けば達成できる見込みとなっている。 実際の活動においては、現状の図書館職員だけでは人員が不十分な場面があった。	
					町民の需要に即した蔵書構成となるよう、予算内で購入資料の精査に努めた。	図書館「みさと本の森」の蔵書鮮度	9.0%	（9.0%） 6.3%	15.0%	C 課題あり	蔵書鮮度が下がったのは、館内整備のために資料の寄贈受け入れを停止している影響が大きい。 購入してから年数が経過し、情報が古くなっている資料が多数ある。 入れ替えは進めているが、引き続き継続して蔵書構成を見直していく必要がある。	
					クリスマス会の開催、公民館での大型絵本を用いたお話会を開催	親子読書事業の実施回数	0回	（1回） 3回	3回	B 概ね期待どおり	公民館のイベントなどに積極的に参加し、目標達成となった。 課題としては読み聞かせやお話会などの図書館イベントにおいて、規模の大きなものを行うには人員が不足している。 中でも図書館ボランティアの力は必要不可欠であるため、より連携を深めていきたい。	
		27	スポーツを通した青少年の健全育成と地域の活力醸成	・各種スポーツ大会、教室、体験会の開催 ・指導者の育成とスポーツ少年団活動の活性化 ・町民主体のスポーツ・レクリエーション活動の推進 ・2030国民スポーツ大会へ向けた機運の醸成 ・ジュニア対象カヌー教室の開催とカヌーサポーター制度を整備し、カヌー関係人口の増加を図る	美郷町体協事務局は県体協と共催でスポレク祭カヌーフェスタを開催。 町体協各競技部は競技の普及を目的とした各種大会を開催。	美郷町体育協会等団体による各種スポーツ大会、教室、体験会等の実施回数	7回	（7回） 7回	10回	B 概ね期待どおり	新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、感染対策を強化したり、開催方法を工夫して各競技部が努力して開催することができた。体を動かすことと住民同士のコミュニケーションの機会となって、心と体の健康増進に寄与している。 多世代間交流や多くの住民が参加できるスポーツイベントを企画することが必要である。	
					カヌーの町づくり及び2030年の国民スポーツ大会島根県大会を見据えてのジュニア育成を目的にカヌー教室を実施する。	ジュニアを対象としたカヌー教室の開催数	0回	（1回） 0回	3回	C 課題あり	新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて実施を中止。 2030年の国民スポーツ大会のカヌー競技開催地として、地元から代表選手を創出したいと考え、ジュニアの育成を急ぐ。	
					カヌーに関わる人を増やし、2030年の国民スポーツ大会に向けて、大会の成功やカヌーの町づくりとしての地域振興の機運醸成に繋げる。 美郷町産業祭に合わせて、カヌーブースを開設し、カヌーサポーターを募った。	カヌーサポーターの登録人数	0人	（20人） 58人	100人	A 期待どおり	年間目標を大きく上回ることができた。 カヌー競技に関わりのある子どもとその保護者においてはカヌー振興に理解が得られているが、その他の住民にとっては未だ浸透してないと思われる。今後は町民一丸となってカヌー振興を推進することが必要である。	